

学習内容報告書 フォーマット

学校名	姫路市立家島小学校
授業者	家島小学校全職員

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

家島うみの時間

1-2. 学年

1～6年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間 生活科

1-4. 単元の概要

本校は、播磨灘に浮かぶ家島群島のうち主要島である家島と採石業の作業場が多く所在する男鹿島を校区にしている。家島の人々は、海運業・漁業・採石業等、過去千百年以上も海での仕事を受け継いできている。児童は、地域の行事に積極的に参加するなど、自分たちの住んでいる「家島」が好きである。しかし、校区内に魚釣りや磯遊び、海水浴ができる恵まれた環境にあるにも関わらず、体験が少なかったり、生まれたときから海や魚を目にしたりしているため、海の生物や環境のありがたさをあまり享受できていない。体験活動や調べ学習を通して、ふるさとの「海」に対する愛着を深め、ふるさと家島を誇りに思い、ふるさと家島の未来に関心を持ち続け、行動できる児童を育成する。

そのため、今年度は「家島の海を探る」1年として、家島のうみに関わることを個々の興味に基づいて、多方面から調べることにした。

1-5. 単元設定の理由・ねらい



本校は、播磨灘に浮かぶ家島群島のうち主要島である家島と採石業の作業場が多く所在する男鹿島を校区にしている。家島の人々は、海運業・漁業・採石業等、過去千百年以上も海での仕事を受け継いできている。児童は、地域の行事に積極的に参加するなど、自分たちの住んでいる「家島」が好きである。しかし、校区内に魚釣りや磯遊び、海水浴ができる恵まれた環境にあるにも関わらず、体験が少なかったり、生まれたときから海や魚を目にしたりしているため、海の生物や環境のありがたさをあまり享受できていない。体験活動や調べ学習を通して、ふるさとの「海」に対する愛着を深め、ふるさと家島を誇りに思い、ふるさと家島の未来に関心を持ち続け、行動できる児童を育成する。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・ふるさと家島を誇りに思い、大切にしていこうとする子
- ・自分達が住んでいるふるさと家島に対する愛着を深め、ふるさと家島のために何ができるかを考え、行動しようとする子
- ・地域の産業の現状と課題を知り、その解決に向けて考える子
- ・生涯に渡り海とつながり、ライフワークを楽しもうとする子

1-7. 単元の展開 (全 55 時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	<p><u>調べるテーマを決めよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家島の海に関する言葉を出し合い、分類する ・自分の興味をもとに、グループを作る 	<p>家島から連想する言葉を列挙することで、多様な考えや自分の興味・関心に気づかせる。そして、興味関心に合わせてグループを作る。その際、異学年でグループ活動ができるように調整する。</p> 
26	<p><u>調べる計画を立て、グループごとに調べよう</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>グループで協力して…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本、インターネットで調べる ・専門家にインタビューする ・模型を作って実験する ・海の生き物の観察をする ・塩工場の見学をする など </div> 	<p>4月から10月までは、4・5・6年生で活動を行った。10月以降は中間交流会を経て3年生も合流して活動するという形をとった。地域の方々へのインタビューや地域の工場を見学するなど、家島にしっかりと軸足を乗せた調べ学習を行った。家島の魚で干物を上手に作るにはどうすればよいか鮮魚店にインタビューを行った。また、学習園で大豆を育て、家島のにがりを使って豆腐作りに挑戦したり、船の模型を作って、船の形の秘密を調べたりすることができた。テーマに沿って調べ学習を行い、異学年で協力して活動する姿が随所に見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩工場 ヤマニ水産 ・造船所 山本造船 ・姫路市消防局救急艇 乗組員 ・市役所 土木課職員 ・水田鮮魚店

4	<p><u>魚をとる仕事について見学しよう</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>漁業体感学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養殖いけす施設見学 ・ 市場見学 ・ 底引き網漁見学 ・ 中間養殖施設見学 </div>	<p>見学前には、自分たちの生活と見学を通して気付いたことや、日頃からグループで調べていることとどのようにかかわっているのかを意識しながら見学できるように事前指導を行った。見学後には、振り返りを行うことで、多くの人々の暮らしを支える家島の仕事に気付けるようにした。魚を獲ったり育てたりする漁業の様子やとった魚の流通について知ること、家島の産業について知るとともに、家島で行われている仕事が多くの人々の生活に関わっていることに気付くことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 坊勢漁業協同組合 ・ 釣り堀「水宝」 ・ 妻鹿漁港市場
3	<p><u>海で命を守りながら、海で楽しもう</u></p> <p>海辺の安全指導</p> <p>海洋アクティビティ体験</p> <p>(本年度は感染症感染拡大防止のため中止)</p>	<p>海で遊ぶ時期を前に、海に潜む危険から身を守るためにできることを実践させた。ライフジャケットの着用や海で遭難したときに浮きの代わりになるものなどを知り、海の事故を防ごうとする意識を持たせた。</p> <p>B & G海洋センター</p>
3	<p><u>海の恵みに感謝しよう</u></p> <p>魚つかみどり体験</p> <p>魚試食</p> <p>漁師さんの仕事 VTR 視聴</p> 	<p>漁師の仕事を紹介する VTR を視聴させることで、定置網漁について理解を深めさせるとともに、魚を獲る仕事の大変さを感じさせた。次に、定置網漁で撮られた魚のつかみどり体験をさせることで、魚の種類の多さや生きのいい魚の姿を実感させた。最後に、自分たちがかみ取りした魚を調理して試食することで、新鮮な魚のおいしさや命をいただくということについて考えさせることができた。</p> <p>家島漁業協同組合 中村水産</p> 
4	<p><u>中間交流会をしよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの調べたことを紹介する ・ グループ同士で意見交流をすること 	<p>グループごとに調べたことをスライドにまとめさせた。中間交流会では、各グループの進捗の報告や意見交流を行った。やした。それと同時に、本交流会は3年生に対してグループを紹介し、3年生がどのグループに入って調べ学習をするのかを選ぶという会でもあった。</p>

2	<u>魚をさばいてみよう</u>	<p>講師指導の下、兵庫県産の魚さばき体験を行った。子どもたちは、いつも食べている魚が、どのように調理されているのか知ること、命をいただくことに対する感謝の気持ちや、料理をしてくれる人への感謝の気持ちを感じることができた。</p> <p>兵庫県漁業連合会</p>
5	<u>調べた成果を発表しよう</u>	<p>各グループで調べたことをまとめ、ワークショップ形式することを計画した。しかし、感染症の感染が拡大したため、発表のようすをビデオ撮り、公開するという形への変更を余儀なくされた。子どもたちは、スライドにまとめるだけでなく、自分たちが作った干物や地産地消レシピ集など成果物も用いて発表を行った。発表後には、感想や質問の交流を行い、対話の場面も設けることができた。</p>
2	<u>他の小学校に家島の魅力を伝えよう</u>	<p>地域のPRを行う他地域の学校と交流することで、自分たちの地域のよさを知ることができると考え、他の地域の小学校と交流会を実施した。外から見た家島の魅力に気付くことができたり、新たな調べる視点を見つけたり収穫の多い交流会となった。</p> <p>・山口県 美祢市立秋吉小学校6年生児童</p>
3	<u>一年間の成果を振り返ろう</u>	<p>個人で振り返りを行った後に、グループで感想を振り返った。子どもたちは、一年間の成果を感じるとともに、来年度の活動に意欲をもつことができた。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

安全な航行のためのルールや船の仕組みについて、船員や造船所で働く人にインタビューして調べ、スライドにまとめることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
1. 身の回りにある船について話し合う。 ・客船 ・ガット船 ・漁船 ・貨物船	・身の回りにはどんな船があるのか話し合うことで、家島で生活するために船は欠かせないことに気付かせた。
2. 安全な航行のために船にはどんな工夫があるのか予想する。 ・安全な航行のために船にもルールがあるのではないかと ・安全に航行するための設備があるのではないかと ・沈まないように考えて作っているのではないかと	・家島には造船所が多いことから、造船所で働く人々の仕事に興味を持つことで、船が安全に航行するためにどのような工夫があるのか予想させた。 ・3年生で、安全な暮らしを守るための仕事学習の際に、安全を守るための法や決まりについて学んだことから、船が安全に航行するためのルールがあるのではないかと疑問を持たせた。 ・児童に予想させることで、安全に航行するためのルールや操縦・船の仕組みにひみつがあるのではないかとという仮説をたてた。
3. 救急艇の船員にインタビューする。	・国語で学習したインタビューの仕方を振り返らせることで、目的に合わせてインタビューができるようにした。
4. 造船所で働く人にインタビューする。	
5. 安全な航行のための船の仕組みについてまとめる。	・安全に航行するためのルール・船の仕組みについて、インタビューして分かったことをスライドにまとめさせる。 ・造船所で知った船の構造からバルバスバウに注目し、その役割について自分たちで実験して調べていく見通しを持たせた。

3. 今回の活動の自己評価

今年度の家島うみの時間を中心に進めてきた海洋教育については、昨年度の活動の良かったところそのままに、反省点を生かし改善できたのではないかと思います。例えば、魚つかみ体験の実施においては、子ども達が漁師さんの仕事を意識したうえで、魚つかみをすることができたことがあります。改善した点、漁師の方の顔を見て、仕事の様子を見て体験できるようにしたことだ。昨年度は、漁師の方に魚を提供していただいただけで、漁師の方との交流が少なかった。今年度は、魚の移動なども支援していただき、子どもたちの活動のようすを近くで見守っていただいた。また、教師が漁師の方の仕事の様子を密着取材し、子どもたちにそのようすをビデオで見せることで、漁師の方の仕事の大変さに気付くとともに、海の恵みをいただいていることを改めて考えさせることができた。

家島うみの時間での学習を通して、子どもたちは家島の海を誇らしく感じる児童を、体験活動中の発言や行動、学習のまとめ発表から窺うことができた。これらの経験を次年度以降につなげていくことで、ふるさとに愛着を持ち、家島のことを語れる児童が育っていくのではないかと思います。

4. 今後の課題

一年を通して計画的に活動できるようになってきた。そうすると活動することが目標になってしまうことが考えられる。そのため、1つ1つの活動のねらいを明確にし、全職員がしっかり共有していかなければならない。また、毎年同じようなことを繰り返すのではなく、子どもたちの海への興味・関心、知識などの実態を把握し、子どもたちにとってよりよい方法で海洋教育を進める必要がある。そのため、昨年度や今年度の取り組みを振り返り、目の前の児童に足りないものは何なのか、全職員で考えながら海洋教育を進めることが大切ではないかと考える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。